



復刊第61号
題字 吉岡弥生



昭和五十年の希い

会長 三 神 美 和

明けましておめでとうございます。会員の皆様にはよい新年を迎えられましたこととおよろこび申し上げます。本部においてもどうぞよい年であれかしと心から希望し、新年を迎えました。

昨年は世界的に経済不安の年でありました。国内においても、インフレ、倒産など、不況と低成長に悩まされ、更に政権交代など、政治面においても不安定な一年でありました。日本女医学会も来年に迫った国際女医学会々議をめぐって、波風の激しい一年だったと思えます。

今年は来るべき国際女医学会々議の具体的な準備をととのえ、実行すべき年だと思えます。

この大事なときに必要なのは、相互の信頼であり、「和」の精神だと思えます。最高の教育をうけ、知性ある女性として自から任じている日本女医学会員は、この点十分ご承知のことと存じますので、今更私如きが云々することもないと存じますが、学園紛争など見えておりました私は、いつも、学校と学生、教授と学生間、更にまた教授相互の信頼が失われておることを痛感するのであります。わが日本女医学会もみんなよく考え、反省して、会員相互が信じ合うことが最も大切ではないかと考えるのであります。納得の行かない点は、どこまでも話し合っけてゆくことが、相互理解を深め、信頼し合うことにつながるのだと思えます。私は昨年来

のわだかまりを解消する道は、ただこの話し合い、理解し合うことによるほかにないと存じます。本年は年頭からこの精神にもとづき、多くの方々話し合っけてゆきたいと考えております。

国際会議はその国の知性を問われる会であります。国際女医学会々議もまた然りであります。日本の女医の学術的真価を發揮し、外国の方々を温かく迎えて実のりある会にしたいものであります。それには全会員一致してこれに当らねばなりません。外国の女医は会議そのものを主体として来られますので、私共は、まづよい学術プログラムを組むことを主眼におき、更に会の運営を円滑に行なうようにしなければなりません。ブラジルの二の舞はしたくないという事は、リオに行かれた方々は思っけておられるでしょう。会員みんな力で力を合わせて、さすがは日本だというように運営したと思えます。

立派な会とするためには今年こそ大切な年だと思えます。十分な準備と会員のご協力こそ絶対に必要な条件であります。そして今年がその準備の年であるからであります。

皆様!! 何卒この点ご理解下さいまして、よろしくお願ひ申し上げます。今年をむなしくすることは国際会議返上という不名誉をもたらす結果ともなりかねないと思ひ、憂慮しております。あの高知市で、熱狂的支持を得て決められた国際女医学会議開催を、返上するようなことがあつてはならないと存じます。日月は待つてはくれませぬ。意見不一致のまま空しく過ぎてゆ

第二十回(昭和五十年)

日本女医学会総会及び観光のご案内

本年度総会は山梨県甲府市で開催されることになりました。

甲府は空気が澄んで、まわりの山は美しく、東洋のイーダーオベルシュタインとも言われている宝石研磨の街でございます。

ここで総会をひらきました後、翌日には富士山や、新緑のみずみずしい富士五湖、甲州ブドウの本場でワイン工場見学などの観光を計画しております。

山梨は小県で会員も多くはございますが全会員が一九となつて、準備をすすめておりますので多数のご参加を心からお待ちいたしております。

総 会

日時 昭和五十年五月二十五日(日) 午後二時

場所 甲府市丸の内 山梨県医師会館(予定)

懇 親 会

日時 五月二十五日(日)午後六時半

くときは、あるいはという危惧さえ抱くのです。これは私一人の思い過しかも知れませんが、賢明な皆様はきっとそんなことにはならないと考へておられるでしょうが、信じ合ひ、たすけ合う気持が一日も早くとり戻せることを希つております。

国内の総会はこの五月甲府で開催されることになっております。支部長始

場所 甲府市湯村温泉 常磐ホテル 宿泊 全 常磐ホテル

観光スケジュール
五月二十六日(月)
ホテル出発(午前八時)―御坂峠

―河口湖―富士スバルライン―富士山五合目―富士ビューホテル(中食)―精進湖―甲府精進スカイライン(経由)―勝沼ワイン工場見学―甲府駅(十六時三十分)解散。

費用

総会費 一、〇〇〇円
宿泊懇親会費 一三、〇〇〇円
観光費 八、〇〇〇円

山梨県支部長 清水 友代

副支部長 小林 梅子

支部会員 一 同

追記 御案内状は追つて会員の皆さま方のお手許まで別送の予定でございますから、切期日までになるべく早くお申込み下さい。

め支部の皆様は張り切つて準備されておられるときいております。山紫水明の地でお互に胸襟をひらいて話し合う場にしたいと存じますので、何卒多数ご出席下さいませようお願ひ申し上げます。

やがて創立七十五周年を迎えんとする日本女医学会、吉岡弥生先生によって、いち早く国際女医学会に加盟し、五十年

会員を四十有余名も出した日本女医学会は創立者の名を汚すことなく、日本の女医の殿堂として、相互の信頼の下、

第14回国際女医学会会議の講演をきいて

野呂幸枝

清々しく、その社会的使命を全うするより希って、新たな年のご挨拶と致します。

この度の私の南米旅行はアルゼンチンのベノス・アイレスで開催された、

国際小児科学会に出席することを主目的とし、丁度隣国のブラジルで時期を接して開催される国際女医学会にも出てみようか、というような軽い気持ちでリオ・デ・ジャネイロの女医学会に出席してみました。

従って何の準備もなく、何を検討されるかも考えず出席したような状態でしたが、この両会議を比較してみても、むしろ女医学会の方が有意義な学会であったと思います。

五日間の会期中で数々の興味深い演題がありました中の一部をご紹介します。

本会議の主題は Genetic and Environmental Factors which affect Human Health すなわち人の健康に及ぼす遺伝と環境という、遺伝学、胎児学、産科学から個人衛生学、社会衛生学すなわち公害の問題に到る人類の縦と横に広がった大きな問題を論じたものでした。

最初に Fiedler, Dolores E. (USA) による、人の胎児期に影響する諸因子

についての講演がありました。

非常に理解しやすい、むしろ常識的な内容ではありますが、次の世代を優秀な人に育てるためには是非心得ねばならない諸因子について述べられましたが、今後なお多くの因子が研究されることでしょう。

詳細は他の紹介文でのべられることと思えます。

Segre, Conceição V. (Brazil) の発表の、新生児の先天性奇形、と題する講演は新生児、未熟児に重点をおいている私にとり、かなりの興味をもって聞いたものでした。先天性奇形は生後一ヶ月間の死亡の1/10を占めている程、死亡頻度の高いものである。もし生存し成人しても機能的に、社会的に色々な問題がおこる可能性が多い。これらの奇形の分類とか、夫々の発生率を検討して、遺伝機構の解明とか、カウンセリングの手段とすることを目的としたものでありました。

新生児一、〇二〇人の中で、外見上の先天性奇形をもつものが四〇人発見されましたが、小頭症四例、Down氏症候群三例、その他の四肢奇形、皮膚

の奇形、膈ヘルニヤなどで手術により治療するものや、あまり重大でない奇形が多いようでした。

私共では、未熟児を多く取り扱う関係上、重大で悲惨な先天性奇形を見るのが度々あり、染色体異常も Down 症候群の他に各種のものが見られていきますので、意外な感が致しました。もちろん一般新生児一、〇二〇人という対象数が少いのかもわかりません。

先天性奇形の発生率は三・九二%であって、男女差は認められません。出生時の体重は一般に正常児より低いようです。在胎週とか、母の年齢は正常児のそれと比較して差を認めなかったと発表していました。

母の妊娠中の健康状態としては、急性疾患罹患が、先天性奇形の発生が多いようですが、慢性疾患、精神的因子、化学的因子、性器出血、種痘などの母の条件と先天性奇形の発生とは関係がないとしています。

家族の中に奇形児と同じ形態の異常をもつものが多いが、他の形態の奇形の存在は奇形児と正常児の間に差はないとしています。

血族結婚の有無についても、先天性奇形児と正常児との間に差はありません。

最後に原因的分類として、染色体異常常としては Down 氏症候群の三例のみで、優性遺伝が四例、劣性遺伝が二例あげられていました。残りの三一例は多因子遺伝であるとしています。

しかし遺伝と決定するための定義は明確にのべられませんし、染色体異常

の三例の他は全部遺伝であるとし、前述の講演でのべられたような胎内障害因子は、全く問題にされていないようである。胎内因子をかかなりの重点で考えている私にとり、どうも賛成し難い講演でした。

次に、心奇形の演題が二題ありましたが、その後の性染色体異常の症例は大変興味深いものでしたので簡単に紹介しましょう。

Maureen H. Roberts というカナダの方の発表です。

第一例は表現型は女性ではありますが、子宮その他性器の發育が悪く思春期になっても第二次性徴をみませんでした。性染色体はXYであって明らか

に男性の染色体を認めています。このYの障害でむしろXOと考えられるべき表現を取っているようでした。一六才で治療を行って第二次性徴を現わしました。

第二例は Turner 症候群をもつ一才の婦人であって、その性染色体はXYとXOのモザイクであることを発見しています(普通は Turner 氏症候群はXOあるいはXXとXOのモザイク)しかもXYは二%にも認めませんでした。小児様の子宮をもち卵巣はありませんでした。もちろん卵巣は発見されません。

第三例は婚約者(男性)が異常に氣付いて、病院に連れてきた女性であります。円錐形の腔を持っていますが、子宮はありません。そけい部に正常大の卵巣が停留していました。外見上、態度は女性であります。性染色体は

XYで明らかに男性のものでした。第四例は、八才で停留卵巣の手術をうけたもので、その後尿道の閉塞でも手術をうけました。その後尿道出血を繰返し、二六才で膀胱炎と腹膜炎の診断で手術を施行した際に、卵管が子宮と腔を通して尿道に開通していることが発見されました。子宮は妊娠七週の大さきでした。性染色体はXXでした。

このように表現が両性の場合にはXYよりXXの方が多いようです。

これは一つの卵細胞に二個の精子が入り、これが二個体にならないで、一個体として育ったものか、あるいは父親が両性でXO/XYがあつて、子に Klinefelter 症候群のようにXXYになるところが、XXになったのかも知れない、との珍らしい考按の仕方をしていました。

このように外見と、性器と染色体とが、複雑で一致しない、すなわち性染色体のチェックで男性、女性を区別出来ない症例を驚いてきました。

三神美和先生の叙勲を祝う

久保田 くら

昭和四十九年十一月三日、本会々長三神美和先生が勲三等瑞宝章を受章されました。まことにめでたい事と存じ上げます。先生は、ご年齢よりもはるかにお若く、とても七十才とはお見受け致しか

ねる程のお元気をもって会長職をこなっておられます。

加えまして、来年、昭和五十一年の夏に日本女医学会の主催による国際女医学会が開催されますので、主催国日本が末々まで誇れるような国際会議を立派におこなうべく、大張切りのご日常でございます。

先生は大正十三年に東京女子医専をご卒業、引きつぎ母校において内科をご専攻。その間、しばらく生化学教室で基礎医学の研鑽を積まれました。したがって、先生の内科学には底力がある、筋金入りであるとの定評がございます。なお、学校においてはつとに三神内科を主宰されておられました。やがて東京女子医大の現学長吉岡博人先生が学長にご就任と同時に大病院の院長に選出され、ご停年まで期を重ねて院長の重責におられました。

先生は溢れるような母校愛を冷静という衣を被せて表現されておられましたが、いざの時は大層お強い方と拝察申し上げます。そして、強固なご意志をお持ちの上に努力をもちわかれ、ために英邁な資質により磨きがかかり、先生のご判断は電光石火かつ男性的、しかし少しく速やかすぎるとの下馬評も無いでもございませぬが、終極的に筋をとおされ、大勢の話にも耳を傾けられることにおいて、会長の貫録充分とは本会々員のおおよそのご意見。さて、昨年暮大層おしつまつりましてから、日本女医学会、東京女子医大および至誠会の三者共催でお祝い申し上げます。昭和四十年

九年十二月二十五日夕、新宿の京王プラザホテルにおいて「三神美和先生叙勲祝賀会」を開催いたしました。年末のご多忙中を、多数のご参加をいただきました。

皆様お揃いでおまちする会場に、黒いドレスの裾をひかれ、エレガントな「いでたち」の先生は一同の拍手に迎えられ、入場されました。参議院議員川野辺 静先生のお心あたたまる開会の辞、



吉岡学長のメッセージを吉岡守正教授(吉岡ふさ先生ご令息)代読、三神先生は傑出せる女性と讃えられました。至誠会副会長山本スギ先生は至誠会を代表され、大病院々長千谷七郎教授は女子のみの大学における三神先生の存在の意義と申してよろしいかどうか……感慨深いお話をいただきました。日本女医学会副会長小俣喜久子先生から日本女医学会を代表してお言葉を頂戴。前会長龍 知恵子先生のご発声

で乾杯、龍先生はご多忙のところを万障おさしくり下さってのご出席、まことに若く美しい先輩でいらつしやられます。ややあつて、京王プラザホテルからのお祝いのケーキに三神先生が「ナイフ」をおいれになる結婚式もどきの一幕があり、やんやの拍手。

国際女医学会々長小野春生先生から会のためお元気であられますようとのお祝辞がありました。

世田谷から、会員柴田千代鶴先生が大正三年に東京女子医専を卒業されたご高齡にもかかわらずお祝にお越しいただきました。そして名譽会員の土倉恒先生は柴田先生よりもお一つお若いとおっしゃいますが両先生とも誠に壮健、よりお若い三神先生にはげましくお祝とおっしゃられるかしくしゃくたるお姿に敬意を表しました。外科の織畑教授、名古屋の支部長森川みどり先生、山梨(三神先生の故郷)の支部長清水友代先生、先生ご同期の小暮要子先生方がごもごも先生をかたられました。会場の皆様は和気あいあい、三神先生と親しくかたられる方もおられ楽しい時間が流れました。「三神先生は時間厳守、もたもたはおきらい」と司会の脳裡をかすめるものがあり、閉会の辞を常任理事の丸山実美先生にお願いいたし懇切なお言葉を頂戴いたしました。ところが「三神先生が切られたケーキもコーヒもこれからである」との注意。司会大慌てで、冷汗三斗の思い、急いでお詫びを申し上げた次第。かねて美声の聞こえ高い常任理事の守安素女先生にシャンソンを所望

荒川あや先生に感謝する会

湯本 アサ

し、一同うっとり。小暮要子先生は、浅草オペラの田谷力三ばかりであると自称の堂々たる独唱。おかげでお菓子もコーヒもさらにおいしく、謡曲でしめくりをとり、森川・峯岡先生がこなた堂々たるお声でお話。やがて本堂のお開きになり、欠席を詫びて大内広子先生がおくられた花束を抱えられた先生は一同拍手の中を退場されました。三神先生のご多様をお祈り申し上げ、ご多忙のところをご出席下さいました。諸先生方に厚く御礼申し上げます。

「荒川先生に感謝する会」という名目で、暮もおし迫った十二月七日(土)帝国ホテル本館菊の間で晩餐会が開催された。それは荒川先生が吉岡弥生賞の基金として、一千万円を日本女医学会へ寄贈されたご芳志に対して



志に対して

おそまきながら、理事たちがささやかながらも銘記すべき感謝の会を持ったのであったが、時節柄忘年会もかねてというところで、先生のおかげで私たちは思いがけぬご馳走をいただき、心暖まるなごやかな一時を与えられた。吉岡弥生賞は昭和四十四年以来、毎

年日本女医学会総会の席上で、学術並びに社会事業の功勞者、二三名に対して、会長から手渡されているもので、すでに会員が衆知していることである。吉岡弥生賞が生れたきっかけは、龍知恵子先生が日本女医学会長の時に、女医の先覚者であり大恩人である吉岡弥生先生を記念する事業を提案され、具体案を企画されたことに端を発している。弥生先生の愛弟子であられた荒川先生が龍先生の發議にいたく感激されて、ここに吉岡弥生賞が成立したのである。

荒川先生の切なるおすすめで、龍先生がこの会に出席されて、お二方の先生がお揃いで金屏風の前に立たれたときは、人生の荒波を乗り越えられた勝者としての偉大さと温容さに、かがやかしくもほほえましい情景に胸打たれた。中川富士理事の司会で、三神美和会長から感謝の言葉が縷縷述べられ、続いて荒川先生の挨拶と龍先生のお言葉もいただいた。荒川先生が私一人でこの榮譽ある吉岡弥生賞の基金を出させていただくことになってしまったことを、おもはやくおわびしたいと謙虚に披露されたお言葉は、特に私の心に刻みつけられた。このすばらしい荒川・龍先生がたに続く後輩として、私たちは目前に示されたこの貴い実績をしっかりと心にとめてゆきたいと願う。荒川先生は大正十年に東京女子医専指定第二回の卒業で、弥生先生が手塩にかけられた直弟子の一人で、弥生先生の偉大さのすべてを生活を通して見出し、味わわれた大先輩である。先生

の心の中にはいつも弥生先生が生きて
えがかれている。先生は医業のかたわ
ら広い視野と先見の明を以って、地域
の社会活動に従事され、とくに、婦人教
育、政治教育に尽くされ、去る昭和四
十七年にはそれらの功績により叙勲の
栄えになられた。特に先生は昭和三十
八年以来、東南アジアからの女子留
生の寮づくりをして指導されて、国際
友好に寄与され、昭和四十八年には母
校東京女子医大の学生のために、大学
の近くに近代的なすばらしい寮を経営
されて、便宜を計っておられる。また
その多忙な生活の中にも先生は趣味を
ゆたかに生かされて妻として母として
主婦として、そして女医として社会人
として、いわゆる多面的、多目的な人
生に、卓越された才能と健康美を發揮
されておられることは得がたい存在と
して高く評価したい。

一口に一千万円とはいえるものの、
その多額の金円を恩師の報恩のために
自発的にやむにやまれぬ気持にかられ
て寄贈された先生の心の広さと豊かさ
を、うらやましくも貴いこととほめた
たえたい。そして吉岡弥生賞とともに
この深い師弟愛と奉仕の精神を末なが
くいい伝えたいものである。

とかく金が物をいう世の中ではある
が、その金を使いこなすのは持ち主の
人柄による。お互が多少にかかわらず
与えられている物の価値を、十分に生
かすことので
きる心の持主
になりたいも
のである。



ニューヨーク女医会からの おしらせ

国際連絡書記
佐野 アヤ子
Mary Putnam Jacobi
Fellowship 2111

New York 女医会は、Fellow-
ship を graduate woman physician に
あたえています。(医学研究、臨床研
究または特殊の post graduate study)
金額は二〇〇〇ドルで、一人または数
人に分けることもあります (July 1,
1975)

これに応募希望の方は March 1,
1975 まづに次記に問い合わせて下さ
い。
Dr. Helena Gilder, Chairman of
Mary Putnam Jacobi Fellowship
Committee
1300 York Avenue
New York, N. Y. 10021
U. S. A.

支部だより

愛知県

支部長 森川 みどり

寒中御見舞申し上げます。会誌は何
時も楽しみに感謝いたしつつ拝見させ
て頂いております。特に本年は多事多
彩な年と存じますので、先生方のこの

上とも御健康にいらせられますように
お祈り申し上げます。当支部からのご報告
を申し上げます。お申越しの愛知県の
募金につきましては、一回全会員宛次の
お願いの書面をお出しいたしました。
本日現在、左記のようにご協力頂いて
おりまして、心から県下の会員各位に
深謝いたしている次第でございます。

ご協力頂いた会員数 二〇〇名
金額合計 二九五万円
賛助頂いた会社数 三二社
金額合計 五八万一千円
合計金額 三五三万一千円
なお一応は十二月でメ切りしましたが
引き続きご協力をお願いいたしてお
ります。

昭和五十年一月十八日
日本女医学会愛知県支部長
森川 みどり

会員への依頼状
秋も峠となって参りました。
先生には益々御機嫌よろしく御活躍
の御事と拝します。日頃は日本女医会
に何かと御支援頂きまして有難く御礼
申し上げます。

すでに御承知のように、昭和五十
一年には第十五回国際女医会々議が東京
で八月二十二日から一週間開催される
ことに決まりました。会長はじめ理事、
組織委員が担当を定め先生方の一段の
御力添えを頂いて心温る実のある会を
持ちたいと願いました。各々が目的達成
のため検討を行なっております。開催
に当りましては何といたしましては資
金が必要でございますので、諸物価高
騰の折柄にお願ひいたし難うござい

ますが、日本女医会の国際的評価を昂
めるために先生の暖かい御協力を頂き
度く伏して御願ひ申し上げます。
愛知県支部といたしましては先生方
の御芳志を一括いたして本部へ送金い
たし度く存じますので、一応支部へ振
り込んで頂きますよう払込票を同封い
たしお願ひ申し上げます。

御応募者名、金額等の一覧表は作製
いたし本部へもお届け申し上げます。
なお、御知合いのメーカー、器械舗、
薬舗その他御奇特の方々の御寄付にも
紹介者として先生の御芳名を共に掲載
させて頂きましますので、払込票の裏面に
それぞれ御記入頂きますように重ねて
お願ひ申し上げます。期日を一応十二
月末日までにさせて頂き度く存じま
す。

記

募金方法について
一、国際女医会々議に出席された方
一口 五万円 円也
一、日本女医会々員
一口 二万円 円也
但し複数で一口御負担頂いても
結構でございます。

一、会員以外からの御寄付
応募者名 金額
会員以外からの御寄付に就きまし
ては御紹介者として先生の御芳名
も御記入下さいませ。
なお、会議にはお一方でも多く御出
席下さいまして盛会裡に終わらせ度く
存じますので未入会の方にも御入会を
お勧め下さいませ。
この上とも御自愛のほど心からお祈

り申し上げます。
昭和四十九年十月

日本女医学会愛知県支部長
森川 みどり

千葉 県

支部長 田那村恵津子

千葉県支部会は花岡常子先生、犬飼
美代先生を中心にして昭和三十二年九
月十五日に千葉市において結成されま
した。その日は本部より竹内茂代先生、
龍 知恵子先生をお迎えし会員三十九
名の御出席を得て盛大に開会されま
した。

以来会員の親睦、向上を目的として
年一回は必ず総会を開き、講演会を催
し、本部より各先生方をお招きして日
本女医会の活動についてお話を伺った
り致しました。また県内の房州、鹿野
山に一泊し、県外にも足をのばして旅
行を楽しんだりも致しました。

山本 杉先生立候補に際しましては
会員ごぞつて自動車に同乗したり、街
頭演説に応援したりいたしました。
現在までに日本女医会の大事業であ
った昭和四十五年万国博には千葉県支
部の会員も多数御参加下され会期中の
五月十七日より二十二日までの救護活
動を無事なしとげました。

その後、千葉県支部会も年毎に発展
し、会員は現在百名近くになりました。
いよいよ昭和五十一年には国際女医
会第十五回国際会議が東京で開催され
ることになりましたので、昨年五月に

開かれた金沢の総会には支部より五名が参加いたしました。また九月にはボランティア精神にのっとりて千葉から私をふくめて十一名の役員が国際会議組織委員になりました。

昨年十一月十七日曜日には久保田くから先生をお招きして千葉県支部総会を開きました。議題は昭和五十一年八月末に帝國ホテルで開催される国際女医会第十五回国際会議について皆様にお諮りし全員の協力を得ました。この会議は女医会はじまって以来の大事業だと思えますし、また世界の女医さんにお会いして学問の交換や社会活動の状況を直接目で見、この耳に感じられるよい折と存じます。この会を成功させるには何となく資金を集めなければなりません。現在千葉県支部ではこの資金について会員の協力をうるため全力をあげて努力中でありませう。

埼 玉 県
総会を終えて

榛 原 芳 江

紅葉も終りに近づき、落葉が散りはじめた十一月二十三日の午後のひととき、大宮公園内の「大清水」において、日本女医会埼玉支部の総会が催されました。

埼玉県支部では総会は毎年十一月二十三日に開くのが恒例となっておりますが、今年は準備がはかばかしく、会員の皆様の出席が心配されましたが、はるばる埼玉の北部や西部の先生方もお集まり

り頂き総勢二十数名となり、なごやかな中にも、にぎやかに会は開かれました。

支部長島田春江先生の挨拶が終り、東邦大学医学部助教、柴田洋子先生の「高齢者の精神医療について」の御講演と、本部よりお越しの上田葉先生

の昭和五十一年の国際女医会東京開催についてのお話がありました。現在老人問題が日本の社会の一つの大きな負担となっている時、高齢者に接する機会が多くなってきた私達開業医にとって、柴田洋子先生の高齢者の精神医療及びその家族に対する医師の態度、処置などのお話は一つ一つ心に銘ずるものがありました。

また、上田 葉先生からは、昭和五十一年八月東京において開催される国際女医会第十五回国際会議についての御説明がございました。

要旨は、会長として小野春生先生御就任のこと、資金として六千五百万円を必要とすること、日本女医会員は一口二万円をお願いしたいということなどでございます。

補足として国際女医会に参加された経験をお持ちの与野市の関根先生よりその時のカラー写真を見せて頂いた。食物のおはなし、服装のこと、マナーのことなどいろいろと具体的な説明をして頂きました。

私達も日本女医会員として国際女医会東京開催の折には協力して成功させなければと心を新にした次第でございます。

議事のあと会計報告、副支部長を二

名指名し終了。名残りをおしみつつかいいたしました。

第十五回国際女医会会議
学術講演の演題募集に関して

第十五回国際女医会々議の東京での開催は昭和五十一年八月二十二日(日)から——いよいよ来年——、かけ足で近づいて参るようです。

会議の中心であります学術講演のテーマは「ウイルスによる疾患(癌を含む)」が主です。これに「地域医療における女医の役割」をテーマとしたワークショップなどが加わります。

演題募集要項が、サーキュラーズとして世界各国の女医会に送られ、日本女医会にも参りました。その要旨は左記の通りですから、皆様、ふるって発表してくださいませよう御案内申し上げます。

1 演題申し込み締切り

昭和五十年五月十五日

2 申し込み方法

演題・発表者氏名・発表者住所・簡単な要旨

英語あるいはフランス語の右申し込みとそのコピーを三部、学術部委員長の久保田くから教授(東京都新宿区市谷河田町19 日本女医会国際女医会組織委員会学術部)宛郵送する。

日本女医会本部からまとめてアメリカ合衆国及びウィーンのプログラム委員にも送るため日本国内における締切りは昭和五十年五月五日とする。

(注) 日本語の演題申し込みも受け付けるが訳す関係上、四月末日までに郵送されたい。

3 演題受理の知らせが届き次第講演抄録と講演全内容(十分位、英語あるいはフランス語)を昭和五十一年三月中旬に学術部(久保田教授)宛送る。

以下は、演題申し込者の参考のためテーマに含まれる分野をわけたものである。

A ウイルス性疾患及び後遺症

1 ウイルス性疾患の病因と病理
2 左記のウイルス性疾患

a 呼吸器系

b 消化器系

c 中枢神経系

d 皮膚及び粘膜

e 眼

f リンパ組織系

g 泌尿生殖器系

h 全身性

3 ウイルス性疾患に対する予防接種ならびに公衆衛生学上の動向

4 妊娠中のウイルス感染

5 ウイルスと悪性腫瘍

B 地域医療における女医の役割

1 医師として

a 診療面において

b 公衆衛生領域における活動

c 医学生、看護婦及びパラメジカル領域で働く人々、あるいは医療にたずさわらない人々の教育に関与して

2 個人として

主婦として、母親として、あるいは最高教育を受けた者として

3 医学関係団体や婦人団体などのグループの一人として (学術部)

モラーニ博士のこと(三)

◆モラーニ邸での十日間◆

大原 一 枝

九月五日

午前九時半、モラーニ教授と同道、女子医大の手術室へ。下顎骨折の結果上下の嚙合不全を来した十七才の黒人男子の上下顎をワイヤーで整復縫合固定する全麻下の手術。術後数週間は固定のまま開口できないので鼻腔栄養を行うとのこと。次いで九才女児の火傷後の瘻痕縮の伸張植皮術後のガーゼ交換を見る。午前十一時半、手術室へ写真屋が来訪、外の廊下でモラーニ教授と二人の記念撮影をする。私のために特に依頼してあった様子。



手術のあとで

正午、ジャーマンタウンのクリケッククラブでの女子医大主催の私のための歓迎ランチョンパーティーへ行く。

トマトジュース、小えびカクテル、チキンリバーのオムレツ、キャンタローブロン、コーヒーの昼食を七人の人々と共にする。女子医大前学長のフェイ博士のほか、大正十三年から昭和二年まで東大で解剖学を講じたというクレンベック博士夫妻がおり、漢字で「空蓮」と署名して見せてくれる。何れにしても、これらアメリカ人の人をもてなす温かい気持には理屈抜きに感謝するはかばかしい。

一同と別れたあと、フェイ博士の車にのせてもらい、ダウンタウンにあるCollege of Physician's Library、カレッジといっても大学でなくて単なる医師会のようなものらしく、ニューヨーク・アカデミー・オブ・メジシンのようなものかと尋ねたところ、"That's right"との答えが帰ってきた。

この図書館は一七八七年に設立された二百年近い歴史をもつので、古いコレクションをほこっている。皮膚科関係の古稀本では、パリのサンルイ病院の資料をもとにトーマス社が一八九五年発行した "Pictorial Atlas of Skin Diseases" など、珍しいものを見せてもらう。古稀本のコレクションをほこるだけでなく、図書館のサイズの大きさでもアメリカ第四位か五位の由。年報によると蔵書数三十二万冊、年間閲覧者数一万三千、閲覧件数六万七千三百五十。

一階には医学博物館があり、特に鍵をあけて見せてくれる。フェイ前学長の案内なので特別扱いをしてきているのかも知れない。古い建物の暗い部屋の中に、思いがけなく彼の有名な腹筋部で互いに連ったシャムの双児兄弟の標本や、発掘された古い頭蓋骨の梅毒ゴム腫による骨破壊像など、数々の標本が無雑作に列んでいる。フェイ博士「この調子だと私たちは土曜日までここにとじこまらねばなりませんね」と戯談をいう。送ってもらって、五時に帰宅。

三十分後、モラーニ教授帰宅、新しいステレオとレコード、陶器の壺の電気スタンドを、古道具屋で購入して帰り、早速レコードをかけて上機嫌である。

九月六日(水)

ミセス・ジョンソンの車で一昨夕ダイナーに招待された、パーク女医の家へ。約束の十二時に彼女の家へついたが、未だ帰っていない。ミセス・ジョンソンはフィラデルフィアの女医の大先輩であるマックファーレン博士のテレビ出演のお化粧係りをひきうけているので、もう行かなくてと困っている。一人で大丈夫と、彼女に行ってもらったものの、隣家も見えないあまりにも閑静な所に一人ボツンと残されて少々不安でもある。一昨夕パーティーのあった庭の卓について、すみきった秋空、木々の枝をわたる風の音の中を、小鳥やりすの動きを追って楽しむ。

約二十分後、パーク女医愛車を駆ってフルスピードで帰宅。すまぬ、すまぬ、ひるの交通ラッシュでくれたという。先日の招待のお礼を言ったあと車に同乗、ペンシルヴェニア大学皮膚科へ。かつて一九五六年ひとりで訪問したことのあるなつかしいチェーリング研究室の古い建物に入る(チェーリング痘疹状皮膚炎の名を御記憶の方もあつたでしょう)。

先ず Shelley 教授の室へ。不在であったが秘書の電話連絡ですぐ帰って来る。ミューン空港で一別以来のあいさつをしているうち、Dr. Samitz が入ってくる。先般日本へ行き帰って来たばかりという。京都では太藤教授にお世話になったといい、新幹線のすばらしいこと、三十三問堂の仏像の顔がみんな違って、どれかが貴方のおちいさんに似ていると説明されたなど、口角泡をばして立板に水としゃべりまくる陽気な人。私もつられて愉快に相手をする。Shelley 教授はパーク女医、サミッツ博士と私の三人の顔を交互に眺めながら、だまって聞いている。それから話が日本人の医学論文の事に及び、立派な論文が沢山あるのに大半が日本語で書かれているため、我々はそれについて何も知る事はできない。これは何とかしなければ……と、今度はシェリー教授が熱心に私に話しかける。

京都大学皮膚科教室から田上八朗氏がガリサーチフェロウとして留学中との事で、シェリー教授早速ハチローと呼びかけて電話をかけて交渉してくれ、次の土曜日に田上氏がモラーニ家へ私を迎えに来て下さることに決定。次いで研究室見学。細菌部門の室では Dr. Magie というニュージールランドから来ている英国系の若い先生に研究内容

の説明をうける。シェリー教授の研究室では組織中のヒスタミンの螢光染色標本を見せて貰う。基礎の学者がなし得なかつたことを皮膚科医がなし遂げたと自讃、別刷をもらう。

ペン大を辞したのち、テンブル大へ向う。Skin & Cancer Hospital の研究室は立派な独立の建物で真菌学部門ではビチロスポルムの菌体多糖体の純分離を行っており、また病理組織部門では、近日中に始まる全米の卒後研修コースのためのテキストがうす高く積み上げられていた。特に頼んでその一部を入手出来たことは予想外の収穫であった。



右からモラーニ教授、フェイ大学長、着物姿の筆者、ミセス・ジョンソン

午後五時帰宅、大急ぎで着物を着て女子医大前学長フェイ博士の招待夕食会に行く。車にのる前、モラーニもジョンソンも私の着物を撮る。フェイ博士を同乗させてダウンタウンを通りぬけ、川岸の船のレストラン「フィラデルフィア一九〇〇」へ着く。いつものことながらメニューの選択が大仕事であるが、おいしいピフテキを食べる。

モラーニはほろ酔い気味でオリブの実をつまむ。午後九時帰宅、入浴就寝。

九月七日(木)

ミセス・ジョンソンに北フィラデルフィア駅まで送ってもらい、ペン鉄道でワシントンへ向う。汽車は割合きれいで混んでもいい。二時間あまりでワシントン着、古い大きい駅のインフォメーションでスタットラーヒルトンホテルの名を聞き、タクシーでホテルへ。一泊一九ドルで、シングル、バス付。着後に Kanof へ電話する(彼女には思いがけず本年リオで再会することが出来たが米國皮膚科女医中の優俊で長らく Journal of Investigative Dermatology の主幹をつづけ、退任時には記念号が出たほどの人)。二時すぎに迎えに来てくれるというので、ホテルのコーヒーショップでおそい昼食をとる。令嬢と共に迎えに来てくれた Kanof の車でワシントンからメリランド州ベセスタに向う。目的は国立医学図書館の視察。四五〇人の職員中三分の二が専門職(司書)とのことで、Index Medicus の機械化された編集室を見せてもらう。すべて大規模、驚くばかりである。

帰途、じゅうたんを敷きつめた立派な大型スパーに寄る。食料を買いこみ包みを係りに渡して合札をもらい、地下の駐車場で札と引きかえに車に買物包みをつみこんでくれる。駐車料金不要でハイサヨナラというシステム。誠にアメリカ式合理主義。Kanof の家でメイドの御給仕で夕

食。食後彼女の夫君（法律家）に大正時代の木版画十数枚を見せられ、西歴に換算した年号を書きいれるお役目を仰せつかる。歓談のち令嬢にホテルまで送ってもらう。

九月八日（金）

ホテルのトラベルビューローでデジャタウン行のバスを聞き、ホテルの前からDのバスに乗る。四、五十分もかかってデジャタウン大へ着く。キャンパスが広いのと、工事をしているので大分廻り道をして図書館へ着く。中年の図書館員は、突然のしかも紹介もない来訪なのに愛想よく親切に話してくれる。新築図書館と聞いて来訪したが、二年後に完成との事で残念。しかし折角訪れたので、聞くべき事をいろいろ聞いて書きとめる。二時間あまりで辞居。あまり親切なので、帰途どこかこの町に見るべき所はと尋ねると、ダンバートン・オックスという博物館がよいという。

大した距離でもないらしいので、道順を聞いた後、ポツポツ歩いて行く。途中、街角のGo.Go.という小さなレストランで学生に混ってミルクとハンバーガーをとる。アイスクリームをなめながら閑静な住宅街を抜け、漸く目指す博物館へ辿りついたが、民家のような構えで門標があるだけで門がしまっている。二時の開館を待って入る。美しいしよしな博物館で金持のコレクションを今は大学が管理運営しているとのこと。小型ながら立派なコレクション（メキシコの発掘品、ベル

シアの金銀器、グレコの絵）を持ち、しかも周囲に美しいよく手入れの行き届いた庭園を囲らしている。スプリングラーの回転撒水水中の庭園をそぞろ歩き、暫らく疲れを休めた後、バスで一度乗かえた後駅へ。帰途は汚い列車でしかもエアコン故障、久しぶりに暑い目を味わいながら北フライデルファイア駅へ着き、タクシーでモラーニ家へ帰宅。

九月九日（土）

京大から留学中の田上博士が九時半に迎えに来て下さる。今日の見学予定はペン大学でなくて刑務所内の彼の研究室であるという。囚人のボランティアの皮膚を材料として研究を行っている由。鍵また鍵でガチャリガチャリ厳重な刑務所の中に入り、黒人が殆ど囚人群の中に好奇心に満ちたまざしに曝されながら通り抜け、独房を改造した研究室を見学。

十二時半、テムブル大学生理学名誉教授のグライスハイマー博士の昼食のお招きに行く。彼女とは一九五六年イス以来の旧知で、真面目そのものの敬けんなクリスチャン。自分の所へ来ないでモラーニの所へ何故先へ行ったかと責められ、返事に困る。帰宅後モラーニにこのことを話すと、Your are Popularと笑う。夜、シカゴからDr. Mc Grew 来訪、例によってLittle Japanese girlのProf. OHARAと紹介される。本年度の米国女医学会長で病理学者、彼の有名なババニコロウの愛弟子とのこと。

九月十日（日）

午前十時半田上先生迎えに来て下さり、お宅へ。朝ひる兼用のBreakfastを御馳走になる。夫人の御心づくしの日本食の数々。大根おろし、苔、豆腐となめこの味噌汁、玉子やき、しいたけ煮物、奈良漬、白菜塩漬等々、長い間、日本食から遠ざかっていた私にとって涙が出るほどうれしい御馳走。肩のこる英語を忘れて日本語で四方山話をしながらの、たのしい教時間であった。

当時、若い皮膚科医であった田上八朗先生は刑務所の囚人ボランティアの皮膚を使って、クリグマン博士と、数々の共同研究業績をあげられたのち帰朝、現在は京都大学皮膚科講師として活躍中であるが、学会などで御目にかかる度に、この時の日本食の御馳走をありありと思い出す。

また、後になって、刑務所内の囚人が私のことをドクター・タガミのマザーかと尋ねたと聞いて、当時未だ若かつたつもりがダーツとなったことなども今となってはほほえましい思い出となった。

九月十一日（月）

午前七時半モラーニ邸を出てペン女子医大手術室へ。モラーニ教授の口蓋裂の手術見学。

午前十一時、郵便局へ見本への小包二個を出しに行き、モラーニ教授の診療所へ行き小憩。

帰宅するとトロイアン女医来宅、私を待っていてくれた。全女医は田上先生

の指導者クリグマン博士の夫人で婦人科医、ハーネマン大所屬。初対面のあいさつの後、家を出てダウンタウンのホテルで昼食のご馳走になる。次いでロダン美術館でひらかれている英国のモダンアートの大家ヘンリー・ムーアの特別展を見る。ヘンリー・ムーアはその後日本でも展覧会がひらかれて一般に紹介されたが、当時その名も知らなかった私が、一見してその魅力につかれた。簡素、奇抜な表現の中に限りない人類愛と深い思想を秘めた新しい造形美にだんだんと引きこまれた（ムーアの作品にはその後一九七〇年メルボルのM.W.I.A.の総会の際、ファイナルバンクットの会場で再会した。一見してムーアの作品と感して近よって見たところ、やはりそうであった。芸術には無縁の私ながらフライデルファイアで初対面の際、心に深い感動をうけたので、メルボロンで思いがけず彼の作品に出会った喜びはまたひとしおであった）。

夕食後モラーニ教授と同道、米国女医学会第二十五支部（フライデルファイア地区）の例会に出席。

会員の一人の私邸に二十人許りの女医が集まり、ソフトドリンクにクッキーが供され、事務的な報告の後、モラーニのソビエト旅行談が彼女の撮影した美しいスライド映写のもとに行われた。この席上、私は日本女医学会として紹介され、米国女医学会第二十五支部長としてのモラーニから記念品（米国女医学会のバッジと銀製シャープペンシル）と記念状を贈呈された。

九月十二日（火）

フライデルファイアをミセス・ジョンソンに見送られてUA機でシカゴへ。シカゴでは皮膚科医のステンハウス、婦人科医のキャスリン・ライト（この人とは今年リオで再会）らと旧交を暖ため、まるで親類の娘のように遇されたが、紙面も尽きたので、モラーニ邸での滞在日記をもとにした本文の稿をここで終る。

思えば長くて短かったフライデルファイア、モラーニ邸滞在の十日間は、彼女をはじめ米国女医連の暖かい友情に包まれた、実りの多い、甘美な思い出に満ちた十日間であった。

常任組織委員会経過報告

山崎 倫子

第十五回国際会議を来年に控えて、準備もいよいよ多忙になるうとしております。昨年八月、全国の支部長と今まで国際会議に参加なさった方々を国際会議組織委員会にお願い致しました。そして、これから度々開かれる準備委員会に旅費自弁で出席しご協力下さる方々をその中から十一名お選びいただき、それに全理事を加えて常任組織委員会を構成しました。昨年八月第一回常任組織委員会を開き、以来毎月一回会合をもっております。各委員会、部会も何回か開かれております。学術委員会はプログラム委員長（アメリカ）と連絡をとりながら会を重ねています。日本における国際

会議は高度な学術会議を主眼としてお
りますが、また楽しい行事もと入れ
たいと考えています。
国際会議を成功させるためのご意見
やアイデアをお寄せをいただきたいと
思います。なお、いろいろの面でのご
便宜、ご協力をお申し出いただければ
大変有難く存じます。
組織委員会の機構及び職務分担は次
の通りです。

国際会議組織委員会

委員長 三神美和
事務総長 山崎倫子
財務委員長 ○印 部長

委員 小侯喜久子
理事部 ○福永ひろ子

募金部 ○松岡 宏子、稲葉 幸子
戸田 静子、石田 妙子

清水 友代、山本美代子

学術委員会
委員長 久保田くら

委員 藤井 傳子、添田 百枝
福島 峰子、橋本 葉子

運営委員会
委員長 川那部喜美子

総務部 ○丸山 芙実、森 千鶴
山口 三重、守安 素女

野中 久子、竹内 静香
国分美池子、野沢 良美

清水五百子

登録部 ○大原 一枝、中西 清子
川島富久子、田那村恵津

子、石川きみ子

広報部 ○上田 葉、熊谷美津子
湯本 アサ、佐藤千代子

渉外部 ○中村 西子、佐野アヤ子
中川 富士 真鍋 昌子

白橋 美笑、長池 博子
岸 直枝

無任所 山本 杉、佐藤イクヨ
森川みどり

なお左記の先生方を顧問にお願い致
したいと考えています。

荒川 あや先生、大村ひさ多先生、
竹内 茂代先生、龍 知恵子先生、
土倉 恒先生、川野辺 静先生、
岩上 妙子先生

アメリカの産婦人科
施設を見学して(2)

常任理事 柳瀬 路子

LYING-IN を辞して MICHAEL RE
ESE HOSPITAL に向。 A. SOOM-
MEGNA 博士に案内されて見学した。

グリーンサイド(手術部門、即 ASE-
PTIC SIDE)は嚴重に区別されてい
て裸になって入らねばならぬそうであ
る。手術室では、帝王切開をやってい
た。同行の某医師が Dr. A.S. に時間
がかかりすぎると言ったら、あの術者
は今日が第一例であると言っていた。

手術を待つ患者の中に、電気聴心器で
心音をドカドカと聴かせつつ帝切
を待つ高血圧の患者、腹壁を通して子
宮内に内圧測定器を設置、子宮内圧を
測りつつ静脈内にフィブリンローゲンを
時間毎に注入する点滴を受けている患
者がいた。

八階の研究部門へ行ったが、実験動
物に猿を使っていた。林教授は今後は
動物実験に霊長類を使わないと許可に
ならないだろうといっておられた。
シカゴ大学で聞いた話によると、卒
後教育は四年間やり、主にフィルムで
やるそうである。イーストマンウイリ
アムズのコースになったフィルムが
あり、好きな時に勉強できるように
なっていた。

サンフランシスコでは午前中 DUSE
を見学した。ここでは産室が一五一
六階と上であり、研究室は下に持っ
てある。十一時に腹腔鏡をやると
いうので、急いで五階の見学室へ行き
天井から見学をする。片方の手術場
は心臓の手術をやっていた。雑多な物
の置いてある部屋でアッペでも手軽に
切るようなお膳立てをやっていた。腹腔
鏡は朝入院させて夕方帰すそう、
焼灼・結紮等を行う由、安全で簡単な
方法であると推賞していた。この未
熟児の ICU は優れており、十年間
に RETROPERITONEAL FIBROPLASIA は
四名で、失明は二名にすぎないとい
っていた。

この大学には現在二六人のレジデ
ントがいるが、四年研修すれば皆専門医
になれる。不合格はない。又 TURENTE
大のように三〇〇例の手術例が必要と
いう制約も無いと言っていた。州によ
って違うようである。

俵給はインタンで九、四三〇〜一
〇、六七〇ドル、チーフ・レジデント
で、一一、九一〇〜一四、七〇〇ドル
(一九七三〜七四現在)であるという。

研究室へ行く MALLEY 博士が鼠
と鬼を使って癌の研究をしていたが、
女性ホルモンの中では Estrogen に発
癌力があるといっていた。又更年期の
Estrogen は卵巣で出来るのではない、
肝・脂肪組織の所で出来るといってい
た。

DAROLD 博士は胎児の下垂体ホルモ
ンの研究をしていたが、米西部の法
律では死んでいる胎児は研究に使用し
ても良い事になっているので、六ヶ月
のものでも胎児の組織を冷凍して他
の地方へ配給しているそうである。(一
Pack 一八、〇〇〇ドル)。

午後より足を伸して STANFORD 大
学へゆく。この研究室では習慣性流産
をやっていたが、殊に Dr. L. A.
HERZENBURG のしていた研究 RAPID
CELL SORTER の装置が興味を引い
た。簡単にいうと、例えば血液をこの
器械にかけると赤血球・白血球・淋巴
球がふり分けられて出てくるという装
置である。種々な測定が随分早くで
きるだろうと思った。日本にもこの装
置は愛知医大に一台あるが、三〇〇〇
万するそうである。

私は今迄、アメリカを毛嫌いして、ヨ
ロッパに許り目を向けていたが、こ
の度、機会があってアメリカの空を飛
び廻り、カリフォルニア・ネバダ・ユ
タ・アリゾナ・ニューメキシコ・テキ
サスと打ち続く果てしない砂漠と荒野
を見、そしてその荒地を灌漑した事に
よって生れたラスベガス・ロスアンゼ
ルス近代都市を見、また南部および
東海岸に打ち広がる原始林ともいっ

き広大な沃野を見た。そしてその広い
国土の中のごく住み良い所にだけ集っ
て暮しているとか思われぬ少数の
人間と無限の資源を見た時、第一に頭
に浮んだのは、この国土の広さと豊か
さを自分達の眼で見たら、かつて
の我陸軍将校連は対米宣戦布告を敢行
できたであろうかという事であった。

過去は過去として、現在、この富裕
でペラルな大國に生活を求めて群が
り集っている雑多な人種のごみきを
一見するに及んで、又私の考えた事は
我々の理想としている世界連邦がで
きるか、できないかは、この國がテス
トケースだろうという事であった。良
きにつけ悪しきにつけ世界の動向は、あ
らゆる可能性を持つこの國から指向さ
れてくるのではなからうかと思つた。

将来を荷なう若い人に、是非一度この
國を訪れて自分の眼でこの國を見、自
分達の進む方向を考えて欲しいと思
つた。

今次の見学でもう一つ私の感じた事
は食糧危機の叫ばれている今日、家族
計画の面からも社会福祉の面からも、
妊娠に際して、染色体の検査を行い、
その悪いデータの出した症例に対しては
何等かの処置ができるような仕事をわ
れわれ女医がやるべきではないかと言
う事であった。

この原稿を書いた時(6月)私は今年
が国際人口年であり、人口会議が日本
でも開かれ又ブカレストで世界会議が
開かれる事を知らなかった。他方ブラ
ジルの国際女医学会でアジアの家族計画
について分科会がもたれると言ふこと

も知らなかった。奇しくも同時期に我が国の人口増加率が理想的で、我が国の家族計画が静止人口を目指していることを知り大変嬉しいことになった。なおこの上はその我が国の理想的な出生率一・二%をもなるべくは優秀な人で埋めたいものだと思う。

(四九・八・二三)

理事会議事録

日時 昭和四十九年八月二十四日 (土) 午後二時~五時
場所 至誠会館四階会議室
出席者 (敬称略)
三神、小俣、山崎、上田、大原、小野、久保田、佐野、中川、福永、丸山、守安、柳瀬、稲葉、川島、熊谷、佐藤千、白橋、竹内、長池、野中、福島、真鍋、森、森川、山口、山本、湯本、八木、佐藤、添田、戸田

一、庶務報告 久保田常任理事
(1)七月一日付、組織委員推薦依頼状を各県各区支部長宛発送
(2)八月一日、右記依頼状を再度発送
(3)組織委員総数四二〇名に対し委嘱状を発送
(4)組織委員辞退者 四名
(5)荒川あや先生に感謝する会は先生の都合により延期
(6)八月二十五日組織委員会出席者 百六十名
(7)第十四回国際女医会会議参加者名 報告
二、会計報告 福永常任理事
七月分

三、議事

(1)役員選挙について
選挙方法について小委員会を作つて検討し、来年の総会に計る。
小委員会は庶務を中心に十名の委員で構成。
(2)国際女医会について
a 第十四回国際女医会会議参加者再確認
b 国際女医会会議出席者に支給する経費に関する件
右記に対する内記(案)を会長より提案あり、検討の結果、今回はこの規程により決定、後日改めて検討して内規を作成す。
会長より提案された内規(案) 国外で行われる国際女医会会議出席者のために本会において支給する経費について次のことと定める。
(イ)経費の全額を支給する者
・ 国際連絡書記
・ 国際女医会役員
・ 当該国際女医会会議において学術分野を担当するもの一名
(ロ)全額もしくは部分的補助金を支給するもの
・ 日本女医会々長が出席する時
・ 講演者として出席するもの
以上の選考規程にしたがい、理事会の承認を得るものとす。
c 国際女医会東京大会について
(イ)日本女医会側より山崎倫子事務局長選出
日本コンベンション・サービスより根本氏事務長にし、両氏の連絡を密にして事務を交渉す。

(四)組織委員会構成

各部長任命
財務委員会 小俣副会長
学術委員会 久保田常任理事
運営委員会 川那部副会長
山崎副会長
(イ)募金趣意書を新に作成
(ロ)国際女医会組織委員会
議長 山本杉、司会 長池博子
議事
国際女医会々議開催 八月
経過報告
組織委員全員に出席および募金に協力を依頼、組織委員に対して旅費は支給しない。
常任組織委員
三神、小俣、川那部、山崎、上田、大原、小野、久保田、佐野、福永、丸山、柳瀬、山本、中村
(イ)結団式
司会 久保田常任理事
挨拶 三神会長
歓送あいさつ 山本理事
(3)次回理事会は十一月九日午後三時九月、十月は休会 (上田、久保田)

理事会議事録

日時 昭和四十九年十一月九日(土) 午後三時~四時
場所 至誠会館四階会議室
出席者 (敬称略)
三神、小俣、山崎、上田、大原、小野、久保田、佐野、中川、福永、柳瀬、石田、稲葉、川島、佐藤千、竹内、中西、長池、野中、藤井、福島、真鍋、森川、山口、山本、湯本、八

木、佐藤、添田、戸田
欠席者 (敬称略)
川那部、丸山、守安、熊谷、白橋、森
庶務報告 上田常任理事
1 三神美和会長 勲三等瑞宝章
2 会員物故者
中村 絹子 岐阜 四九・八・一六
石黒 キヨ 江東 四九・九・四
松原 よね 長野 四九・一〇・七
3 会員見舞
森川みどり先生に(一〇・一四) 病氣お見舞 生花をおくる。
4 海洋博医療奉仕参加申込者
美安 静子(兵庫支部)
小林 秀子(群馬支部)
照屋 正子(杉並支部)
5 国際女医会報告会出席者 六十三名(四九・一・九)
会計報告 福永常任理事
八、九、十月分 別紙の通り
議事
1 理事全員を第十五回国際女医会々議の常任組織委員に委嘱する 可決
2 ルーベンダングンに関する件 (イ) 値上げの件 業者より申出があったが保留、後日検討 (ロ) 責任者 佐藤千代子(従来より)
3 次回理事会、常任組織委員会 十二月七日(土)
4 事務員手当増額の件 現行 改正
住宅費 一、〇〇〇 三、〇〇〇

理事会議事録

日時 昭和四十九年十二月七日(土) 午後三時~四時三十分
場所 至誠会館四階会議室
出席者 (敬称略)
三神、小俣、山崎、大原、上田、小野、久保田、佐野、中川、福永、丸山、守安、石田、稲葉、川島、熊谷、佐藤千、白橋、竹内、中西、長池、野中、藤井、福島、真鍋、森川、山本、湯本、八木、佐藤、添田、戸田
欠席者 (敬称略)
川那部、柳瀬、山口
報告、議事に入る前に日本コンベンションサービスとの契約書に調印す。
1 請負契約金(委託金)の支払いについて
①やむを得ぬ事情で国際女医会会議開催不能となった場合
②J・C・Sの契約不履行の場合

交通費 三、九〇〇 七、〇〇〇
十実費 〇 限度とする
インフレ手当 一、〇〇〇
以上の案は漸進的のもので十月にさかのぼって支給 可決
5 荒川あや先生感謝の会 十二月七日(土)
6 会議横書の件 保留
その他
(イ) 小野春生常任理事 国際女医会々長に就任
(ロ) 山崎倫子副会長 ブラジル大統領より表彰さる(勲章授与)
上田 葉
久保田 くら

- 業務請負契約書第六条を参照
- J・C・Sからの契約に際しての希望条件
 - 取扱銀行 住友銀行日比谷支店
 - 交渉窓口の一本化
 - 事務総長、財務委員長の緊密な連絡
 - 請負契約金(委託金)の支払
- 調印に先立ち以上の点につき審議す
- 庶務報告 上田常任理事
- 四九・一一・一七 千葉県支部会開催
 - 四九・一一・二二 久保田常任理事出席
 - 四九・一一・二三 埼玉県支部会開催
 - 上田常任理事出席
 - 社団法人 日本文化協会 光のプレゼント運動への協賛依頼あり
 - 年額二万円寄付
 - 毎年のことなので今後も引続き協賛 可
 - 四九・一一・二六 緊急理会の通知を速達で発送
 - 会計報告 守安常任理事
 - 別紙の通り
 - 議 事
- J・C・Sと契約の件
 - 第十四回国際女医学会収支報告 福永常任理事
 - 第十四回国際女医学会会計剰余金、登録戻し金について
 - ルーペンダンの件
- 値上げについて 年末年始特別セールは旧価格で
 - 特別セール期間以後は会員および会員紹介の場合

定価の一割引で
女医学会誌原稿の件
事務員ボーナス・歳暮の件
その他 可

○中華人民共和国婦人団体来日
五十年一月十四日より三週間滞在、日本女医学会もその歓迎団体に参加してほしいとの申出あり 可

○国際女医学会会議参加規程(女医で日本女医学会未加入者の場合)
上田 以上 葉

国際会議のテーマに関連して
調査研究のお願い!

地域医療における女医の役割については、各支部単位でも個人でもご調査下さればありがたいと思えます。地域の特殊性によって女医の役割や活躍分野の違いなどもでてくるかと思えますし、地域特殊性のおもしろい調査結果が出てくるかも分りません。日本女医学会としても各地区の調査研究をまとめたかと考えています。もちろん日本語で結構です。

詳細についてのお問合わせは学術委員長久保田または藤井壽子宛にお願いします。

第二十回定期総会
開催日変更のお知らせ!!
五月十七日(土)山梨支部で定時総会開催の予定でしたが、セネストのため急に五月二十五日(日)に変更になりましたので念のためお知らせ申し上げます。

○本部よりのお願い
左記会員の住所がわかりましたら本部までご連絡願います。

△北海道△岡崎昭子、梶尾 文、△青森△稲垣鶴代、堀中マツエ△秋田△高階美恵子、△岩手△柏原利子、柴田陽子、△宮城△飯島久子、石垣あや子、小川恵美子、小島宮子、佐々木和子、清水洋子、玉井ハル、豊島桐子、早坂邦子、牧野礼子、△福島△桂 京子、△群馬△阿部登志、佐藤貞子、谷ふみ子、△千葉△中野洋子、山本嘉鶴榮△板橋△林 鈺子、△大田△久野俊子 鈴木美絵路、△北△近江サチ、富田芳子、△品川△牛込保子、△渋谷△外山

昭和五十年一月二十日より、左記の如く価格を改訂させていただきます。なお、今後は会員に限り、常時、全製品について一割引のお取扱いを致す事になりました。

思わぬ時に重宝するルーペンダンを、是非、一層多くのお知り合いの方々にご紹介下さいませ。

千枝子、△新宿△中村なを、光瀬キミ、△杉並△角田満寿子、△世田谷△後明啓子、中山博子

編集後記
昭和五十年の年頭号がまとまった。三神先生の「昭和五十年の希い」は会長としての重責を切々と吐露されたもので、一しお身のひきしまる思いがする。会員諸姉の熟読を期待する。

お互がこの一か年の目標を心に刻み込む絶好のチャンスとして熟慮しようではないか。

一九七五年を国際婦人年とすることが一九七二年の第二十七回国連総会で定められた。その活動目標は平等・発展・平和である。

この度の日本女医学会誌がくしくも国際婦人年にふさわしく、国際的にゆたかな内容と、しかも女医学会誌に独特なアカデミックな記事で彩られていることはすばらしい。

また三神会長の叙勲祝賀会や荒川あや先生に感謝する会などの記事が、女医活動のゆるぎない基盤を物語っている。そして会員の誰もがこの活力と、このエネルギーを結集して、一途に来年の国際女医学会開催に向けたと願っている。

人はそれぞれに色々な考え方があり、色々な立場があつてこそ、そこから調和と協力がみえ、完成へのマイルストーンとなるであろう。

お互いに信じ合い、納得し合うことで平和に活路が開かれてゆく。大世帯の日本女医学会が機能的に恒常性を維持してゆくためには、お互いが組織体のルールを守り通さねばならない。

国際女医学会開催まで残り僅かに十八か月。時の流れに追い抜かれないように募金活動や学術研究に着々と準備をくりひろげてゆこう。

全会員の底力をもえたぎらせて一歩発展へと針路を向けようではないか。

昭和五十年二月二十日印刷
昭和五十年二月二十五日発行
編集人 大原 一 枝
発行人 日本女医学会
発行所 東京都新宿区市ヶ谷河田町19
社団法人 日本女医学会
印刷所 東京都港区白金五丁目一
興栄美術印刷株式会社

日本女医学会考案
ルーペンダン
実用新案特許 43-57772

価格表

●ペンダント型	●クリップ型
<ul style="list-style-type: none"> 白色(ダイヤモンド) ¥2,800 白色(パール) ¥2,800 白色(パール) ¥2,800 白色(パール) ¥2,800 白色(パール) ¥2,800 白色(パール) ¥2,800 	<ul style="list-style-type: none"> 白色(パール) ¥2,800 白色(パール) ¥2,800 白色(パール) ¥2,800 白色(パール) ¥2,800 白色(パール) ¥2,800 白色(パール) ¥2,800
●高級品	●プレーン
<ul style="list-style-type: none"> シルバー製 ¥11,800 18金製 ¥23,800 ●スクエア シルバー製 ¥11,800 18金製 ¥23,800 ●からくさ シルバー製 ¥11,800 18金製 ¥23,800 	<ul style="list-style-type: none"> シルバー製 ¥9,800 18金製 ¥21,000 ●金 黒 18金製 ¥23,800